

## 証券投資信託 商品概要説明書

項目	内容
1. 商品名 愛称	DC日本株式エクセレント・フォーカス
2. ご利用者	当商品を選定されている確定拠出年金プランの加入者および運用指図者の方 (ただし、名義は確定拠出年金制度における資産管理機関または国民年金基金連合会からの委託を受けた事務委託先金融機関となります。)
3. 商品分類	投資信託協会分類：追加型投信／国内／株式
4. 商品属性	
当初設定日	2003年 1月31日
信託期間	無期限
クローズド期間	ありません。
主要投資対象	日本株式エクセレント・フォーカス マザーファンドを主要投資対象とします。 (当該マザーファンドは、わが国の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。) なお、株式等に直接投資することもあります。
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主として日本株式エクセレント・フォーカス マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式に投資します。</li> <li>● 個別企業分析に、市場動向分析を積極的に付加し、投資銘柄を厳選することにより、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数、配当込み)に対する超過リターンを目指します。</li> <li>● 長期にわたり持続的に企業価値を高められる銘柄への厳選投資により、長期的に TOPIX(東証株価指数、配当込み)を上回る運用成果を目指します。</li> <li>● 資金動向、市況動向に急激な変化が生じたとき等、ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。</li> </ul>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株式への実質投資割合には、制限を設けません。</li> <li>● 外貨建資産への投資は行いません。</li> </ul>
ベンチマーク	TOPIX(東証株価指数、配当込み)
決算日	毎年11月30日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時(11月30日)に、原則として収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 収益分配金は自動的に再投資されます。
償還条項	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受益権の口数が20億口を下回ることとなった場合</li> <li>● ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合</li> <li>● やむを得ない事情が発生した場合</li> </ul>
5. お申込み方法	当プランにおける拠出金または他の運用商品の売却資金により購入できます。
お申込み単位	1円以上1円単位
お申込み価額	購入約定日の基準価額が適用されます。
6. 解約方法	当プランで選定されている他の運用商品の購入資金に充当する場合は自由に解約できますが、確定拠出年金関連法令で定められている一定の給付事由以外は現金でのお引出しはできません。
解約価額	売却約定日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額が適用されます。
7. 費用	この商品には次の費用がかかります。
販売手数料	ありません。
信託報酬	純資産総額に対して年1.375%(税抜年1.25%) (内訳:委託会社0.715%(税抜0.65%)、販売会社0.55%(税抜0.50%)、受託会社0.11%(税抜0.10%))
信託財産留保額	売却約定日の基準価額に0.3%を乗じた額

(運営管理機関) リそな銀行

項目	内 容
7. 費用(つづき) その他費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、そのつど信託財産中から支弁します。なお、信託財産の財務諸表の監査に要する費用(消費税等相当額を含みます。))は、信託財産から収受する信託報酬中より委託会社が支弁します。</li> <li>● 借入金の利息は、原則として借入金返済時に信託財産中から支弁します。</li> <li>● ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に対する消費税等相当額、先物取引・オプション取引に要する費用等は、取引のつど信託財産中から支弁します。</li> </ul>
8. お申込み不可日等	委託会社は金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社の判断でファンドの受益権の取得の申込および一部解約の実行の請求の受付を中止すること、およびすでに受付けた取得申込を取り消すことができます。また、確定拠出年金制度上、お取扱いできない場合がありますので、弊社コールセンターにお問合せください。
9. 課税関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 確定拠出年金制度においては換金時、償還時、収益分配時の利益に対して課税されません。</li> <li>● 加入者および運用指図者の方の年金資産残高に対して、毎年約1%の特別法人税等が課税されますが、その適用については現在凍結されています。</li> </ul>
10. 利益の見込み 損失の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基準価額は、後述の基準価額の主な変動要因等により、下落する場合があります。したがって、購入者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。また、将来の基準価額の予想ができないことから、利益の見込みを事前に示すことはできません。なお、当ファンドにおける運用により信託財産に生じた損益はすべて購入者のみなさまに帰属します。</li> <li>● 当ファンドの基準価額は弊社コールセンター、Web等で開示します。</li> </ul>
11. 基準価額の主な 変動要因等	当ファンドは、株式などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。主なリスク要因は次の通りです。
株価変動リスク	株価変動リスクとは、経済情勢の変化等により株価が変動するリスクをいいます。一般に、企業業績、国内外の景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、株価が下落(上昇)した場合には基準価額の下落(上昇)要因となります。
信用リスク	信用リスクとは、有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスクをいいます。一般に、このような事態が生じた場合、またはそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額が下がる要因となる可能性があります。
流動性リスク	流動性リスクとは、短期間に相当金額の解約申込みがあった場合等、当ファンドの保有資産を大量に売却せざるを得ない場合に、市況動向や取引量等の状況により基準価額が大きく変動するリスクをいいます。一般に、売却資産の市場における流動性が低いときには、期待する価格での取引ができないことや、取引に相応の時間を要することがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。
その他	当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが主要投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに資金変動があり、その結果、当該マザーファンドにおいて有価証券の売買等が行われた場合等には、ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。
12. セーフティー ネットの有無	投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
13. 持分の計算方法	$\text{解約価額} = (\text{基準価額} - \text{信託財産留保額}) \times \text{保有口数}$ <p>※ 基準価額・解約価額が10,000口あたりで表示されている場合は10,000で除してください。</p>
14. 委託会社	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。)
15. 受託会社	三井住友信託銀行株式会社(信託財産の保管、管理業務を行います。)

## (運営管理機関) りそな銀行

- ◆ 当資料は、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ◆ 当資料は、確定拠出年金法第24条および関連政省令に規定されている「運用の方法に係る情報の提供」に基づき、当商品の内容をご説明するために作成されたものであり、当該投資信託の勧誘を目的とするものではありません。
- ◆ 投資信託は、株式など値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金および投資成果が保証されているものではありません。投資信託の運用による損益は、購入者に帰属します。
- ◆ 上記商品内容をご確認のうえ、確定拠出年金法第24条に基づき別途ご提供する上記商品の過去の運用実績と併せて、ご自身で投資判断を行っていただきますようお願いいたします。